

# トルコにおける市場空間の特性に関する基礎的考察

鶴田佳子・高木亜紀子

## 1. はじめに

トルコの都市の中心部には通常、市場空間が広がっている。市場空間には、トルコ語でチャルシュと呼ばれる商店街とパザルと呼ばれる露天市の2つの空間形態がある。都市によって1つの空間形態が中心部すべてを形成するものと2つが中心部を共に形成するものがある。市場空間は都市の規模や歴史、地理的な条件等が反映しているものと考えられ、トルコ諸都市の特質をみる上で欠かせない都市空間と捉えている。本稿は、調査事例に基づいて市場空間の形態を分析し、空間の特性及び地域性を抽出するための指標づくりを行うものである。

本研究に先立って、現代のトルコ諸都市における空間特性について歩行者空間を切り口に分析を行ってきた<sup>1</sup>。都市中心部において人のための空間として機能し、多くの人々が利用可能な公共性を有する空間を歩行者空間と定義し、構成要素から特性を整理することで、商業施設及び宗教施設が重要な要素であることが確認できた。歩行者空間全体の性質としては、チャルシュ、露天市、歩行者天国という3つのタイプに分類できる。歩行者天国は街路または広場への車両の進入を管理者が規制するものであるため、今回の市場空間を考察する際に対象エリアの一部に含まれるものもあるが、ここではチャルシュと露天市のように商業活動を主機能とする事例を中心に分析を進めることとする。

## 2. 研究手法

トルコにおける全体像を把握するために、地域及び規模の異なる都市を選定し、各都市では対象となる市場空間を定め、現地調査を実施する。多様な事例データの収集に努め、調査データに基づいて空間

形態の分析を行う。研究対象とする地域を選定は治安面や気候面での調査条件も考慮し、都市については文献及び既往の歩行者空間調査<sup>2</sup>から得られた都市の規模や歴史、地図情報等をもとに選定する。各都市における調査対象エリアは地図、文献情報から予測し、現地で状況を確認後、決定する。1回の調査期間が2~3週間と限られるため、各回、調査対象地域を限定し、その中から都市の選定を行う。数年かけて現地調査を重ね、トルコ全体像の把握へとデータを蓄積していく予定である。

現地調査では、対象エリアの空間形態について図面及び写真による記録、同時に文献資料及びヒアリングによる情報収集を行う。ヒアリングは行政機関、商店主、工房の職人、露天商、住民、現地研究者等に行い、多様な角度からの情報を収集する。対象エリアの空間形態は建築からみるハード面の形態だけでなく、市場空間での人々の活動状況等ソフト面での空間の様相も併せて記録し、分析対象として捉える。露天市については、開催日時、開催場所と内容、露店の形態を記録する。都市によっては中心部の露天市以外に居住区で開催されている露天市もあり、併せて都市内での位置づけを確認し、都市構造をみる際の一要素として捉える。調査機材はデジタルカメラ、距離測定機器、コンベックス、角度測定器、方位計等である。調査後は収集データを作図、デジタル化し、分析の基礎データとする。空間構成をみるために事例毎に構成内容を確認し、空間配列や利用状況等をもとに分析をすすめる。

## 3. 調査概要

第1回トルコ都市・市場空間調査を2007年8月、第2回を2008年3月に行った。第1回の調査地は、中部アナトリア地方及び黒海地方を中心に、調査対

象都市を歩行者空間調査の結果及び文献資料等の情報によって選定し、3週間で調査可能な行程を組む（詳細は下記、調査行程及び調査地位置図参照）。第2回は第1回の補完及び季節による空間利用の変化を確認する目的の継続調査として、イスタンブールとアンカラを結ぶ旧交易ルート沿いの都市を選定し、2週間で調査可能な行程を組む（詳細は下記参照）。2回の調査共にイスタンブールでは主に露天市を対象とした調査を行っているが、大規模都市の露天市の形態として別途、報告予定であり、本稿では扱わないこととする。

### 1) 調査期間

〔第1回〕 2007年8月7日から8月27日の21日間

〔第2回〕 2008年3月12日から3月25日の14日間

### 2) 調査メンバー

〔第1回〕

鶴田 佳子（昭和女子大学現代教養学科講師）

高木 亜紀子（昭和女子大学生生活環境学科助手）

〔第2回〕

鶴田 佳子（昭和女子大学現代教養学科講師）

高木 亜紀子（昭和女子大学生生活環境学科助手）

穴戸 克実（エルム都市計画設計室）

### 3) 調査行程及び調査地位置図

（（ ）内は経由地を示す。図1参照）

〔第1回〕

1. 8月7日（火）Tokyo → (Seoul) → İstanbul
2. 8月8日（水）İstanbul
3. 8月9日（木）İstanbul
4. 8月10日（金）İstanbul
5. 8月11日（土）İstanbul
6. 8月12日（日）İstanbul → Göynük
7. 8月13日（月）Göynük
8. 8月14日（火）Göynük → Taraklı → Göynük
9. 8月15日（水）Göynük → Mudurnu
10. 8月16日（木）Mudurnu → Bolu → Safranbolu
11. 8月17日（金）Safranbolu
12. 8月18日（土）Safranbolu

13. 8月19日（日）Safranbolu → Kastamonu

14. 8月20日（月）Kastamonu → (バス)

15. 8月21日（火）→ İstanbul

16. 8月22日（水）İstanbul

17. 8月23日（木）İstanbul

18. 8月24日（金）İstanbul

19. 8月25日（土）İstanbul

20. 8月26日（日）İstanbul →

21. 8月27日（月）→ (Seoul) → Tokyo

〔第2回〕

1. 3月12日（水）Tokyo → İstanbul

2. 3月13日（木）İstanbul → Göynük

3. 3月14日（金）Göynük → Taraklı → Göynük

4. 3月15日（土）Göynük → Taraklı → Mudurnu

5. 3月16日（日）Mudurnu → Bolu

6. 3月17日（月）Bolu → Mudurnu → Nallıhan

7. 3月18日（火）Nallıhan → Beypazarı

8. 3月19日（水）Beypazarı

9. 3月20日（木）Beypazarı → (Ankara) → İstanbul

10. 3月21日（金）İstanbul

11. 3月22日（土）İstanbul

12. 3月23日（日）İstanbul

13. 3月24日（月）İstanbul →

14. 3月25日（火）→ Tokyo

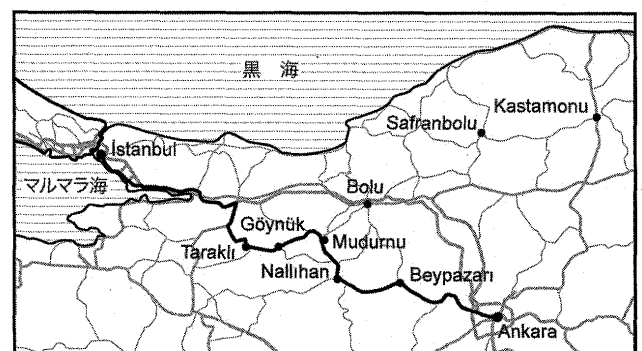


図1. 調査地位置図

### 4) データカード（pp. (55)～(62) 参照）

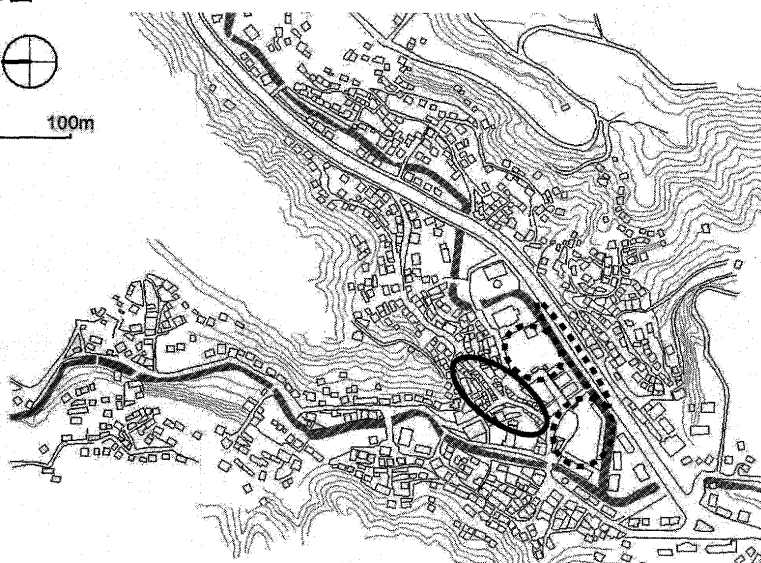
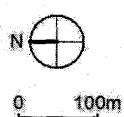
調査を実施した9都市からイスタンブールを除く8都市について、都市ごとにデータカードを作成した。データカードには都市コード、都市名、都市の概要、都市図、チャルシュエリア図、パザルエリア図<sup>3</sup>、代表写真3点を納めた。図の凡例は図2に示す。

都市コード	02
都市名	Göynük

#### 概要

黒海地方西部のボル県ギョイヌック郡の中心に位置する。人口4,984人（2000年）。緑豊かな山に囲まれ、V字状に流れる川を挟み、その両側の斜面に築100～150年の伝統的な木造住宅群が建ち並んでいる。チャルシュは旧交易ルート沿いに形成されている。チャルシュ・ジャミィを起点に約100m、50～60年の歴史をもつ商店が並ぶ。月曜日は市役所横の広場、ハمام前広場及び幹線道路沿いの歩道で開催される。市役所横の広場は食料品エリア、隣接する市場施設は近くの村々の生産物エリア、ハمام前の広場は衣料品や雑貨エリア、幹線道路沿いの歩道は、食料品及び雑貨のエリアとなっており、合計90軒の店が出る。

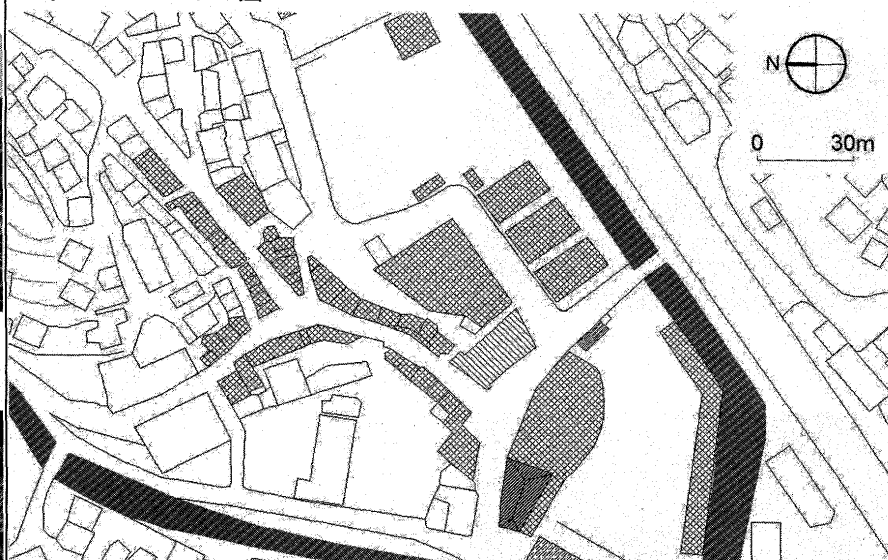
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



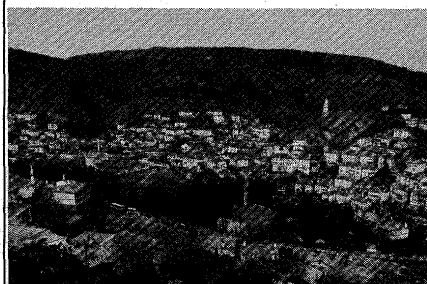
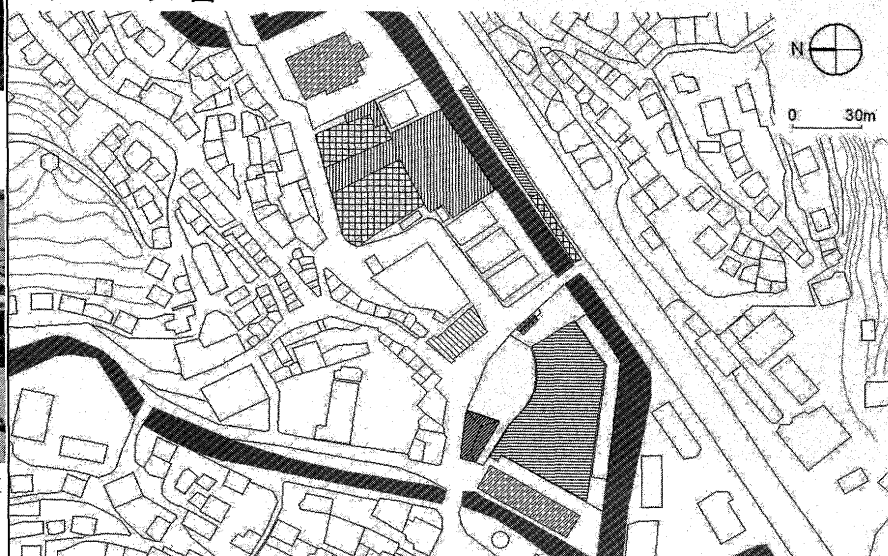
0 30m



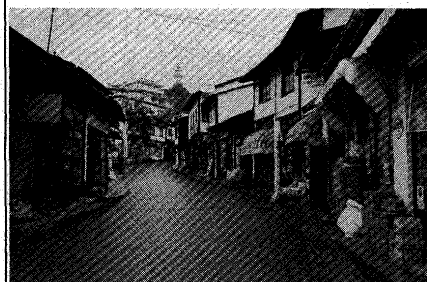
#### パザル エリア図



0 30m



北側の高台から町を見下ろす。緑豊かな山に囲まれている。



旧交易ルート沿いに店が並ぶ。写真奥には町のランドマークである「勝利の塔」が見える。



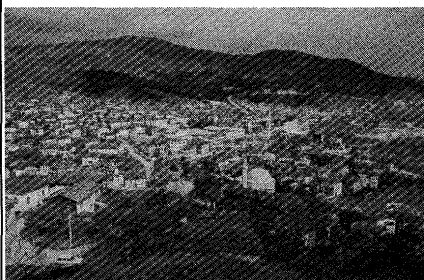
市役所横の広場の食料品エリア。通常は駐車場として利用されている。

都市コード	03
都市名	Taraklı

#### 概要

古代からの長い歴史を有し、ビザンツ時代は小さな城塞都市、オスマン帝国時代は街道沿いの宿場町としての役割を担ってきた町である。現在は伝統的な木造民家の修復に力を入れており、2007年は国内外から多くの観光客が訪れている。人口は4,146人（2000年）。

メインストリートであるイスタンブル-アンカラ通りが町を東西に貫いている。この通りの南側に商店街、北側に市役所と土曜開催のバザルエリアがある。露天市は大屋根のかかったエリアに野菜等の食料品が40軒並び、外の広場には衣類や日用品、農具などが並ぶ。村から農産物を持参する店もあり、3月の調査時はチャルシュの東側にあるジャミイの前で農作物の種や苗木を販売していた。チャルシュは小さな店舗が連なり、中には工房や伝統工芸品を売る店もあるが、調査時の利用者は少なかった。



南側の丘から中心部を見下ろす。周辺はなだらかな山に囲まれている。

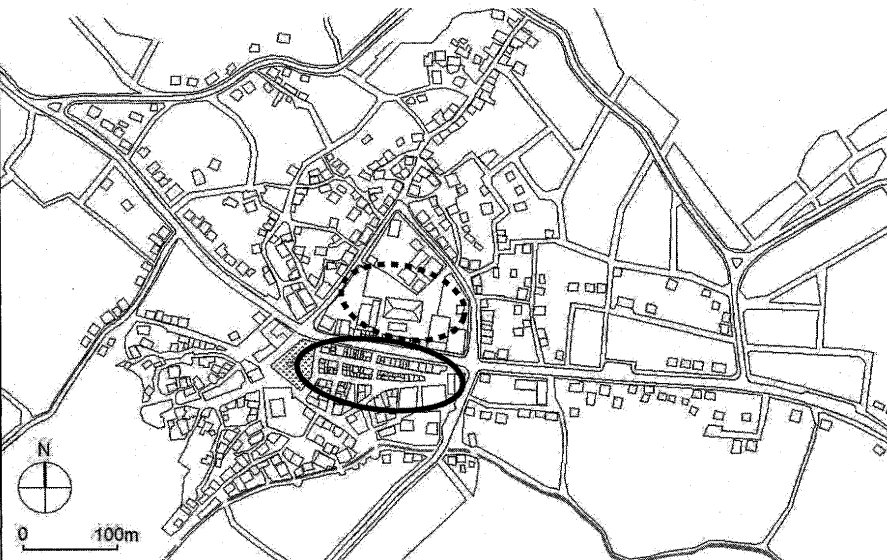


チャルシュを西から東に向かって見る。写真奥にジャミイの塔がそびえている。

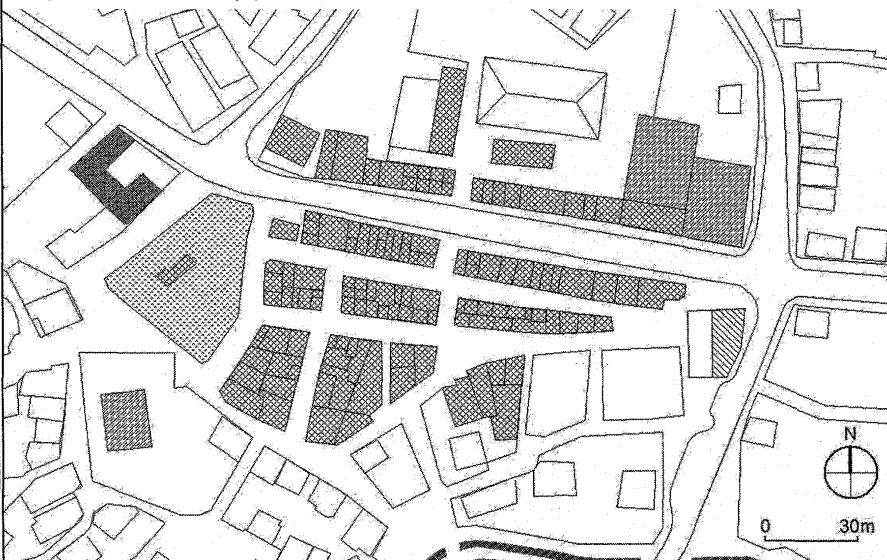


土曜市の様子。屋根のかかった食料品エリアは東西に4列、露店が並ぶ。写真は店の準備のため、商品を並べているところ。

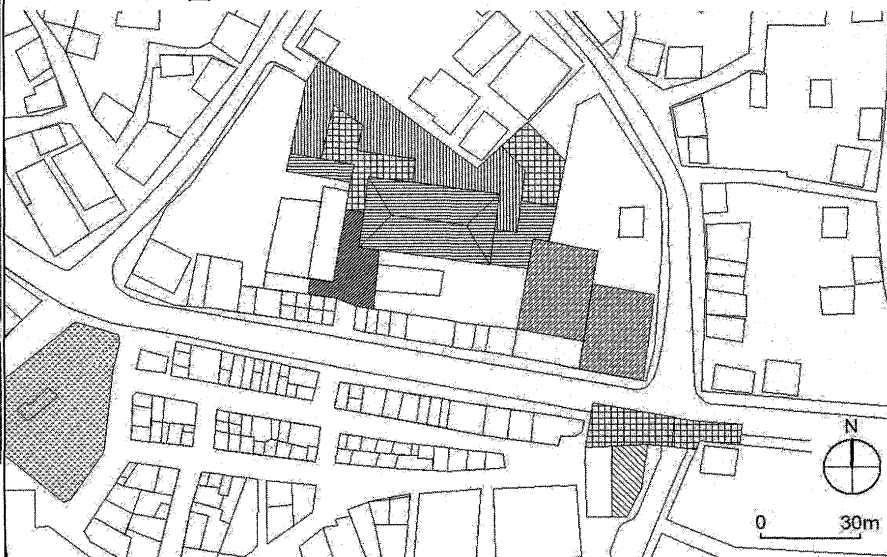
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### バザル エリア図





都市コード	04
都市名	Mudurnu

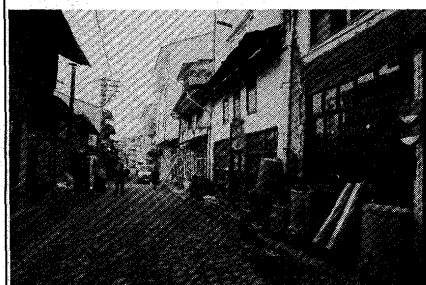
#### 概要

人口 5,955 人 (2000 年)。歴史は古代に遡ることができ、ビザンツ時代には丘の上に城塞が築かれた町である。アンカラからイスタンブールへ山道を抜ける旧交易ルート沿いの拠点であり、町の中心には 1382 年建造のウルドゥルム・ベヤジッド・ジャミイとハمامが残っている。また、3, 4 階建ての伝統的木造民家も数多く、修復、保存されている。

チャルシュは幹線道路に接する形で東側に位置し、グリッド状の平面構成でほとんどが 2 層の小規模店舗の連続となっている。工房も多く、今後保存される方向である。土曜市は広場と周辺の通りに露店が 120 軒並び、村の生産物は広場の東側に付属する屋根付の一面で販売されている。広場西側の屋根付エリアは魚屋専用である。



東と西を山に挟まれた谷間に位置し、南北に流れる川に沿って細長い都市形態である。東側の時計塔のある丘から町を見下ろす。

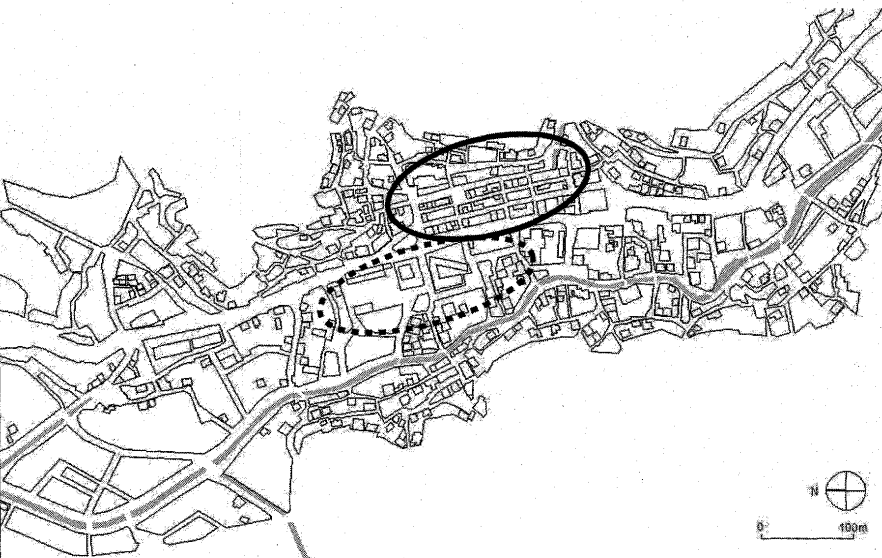


チャルシュの南北に長い通り。営業していない店舗もあるが、写真右手前のような工房もあり、今後保存される方向である。

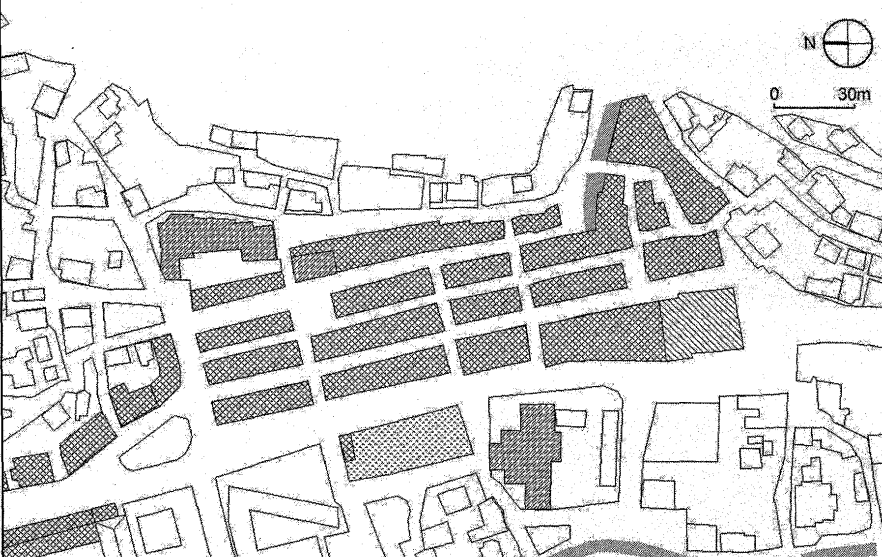


土曜市開催の中心広場の東側に位置する村の生産物の販売エリア。屋根と陳列台が常設で置かれている。

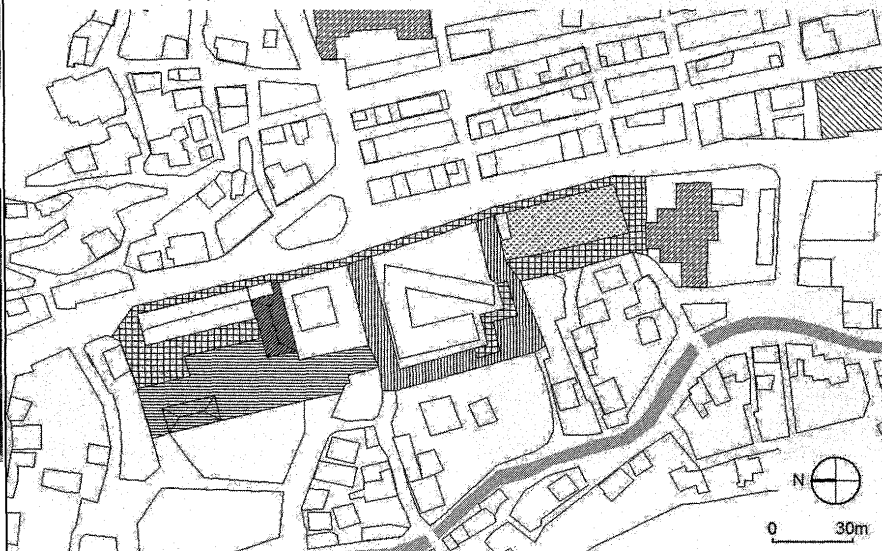
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### パザル エリア図



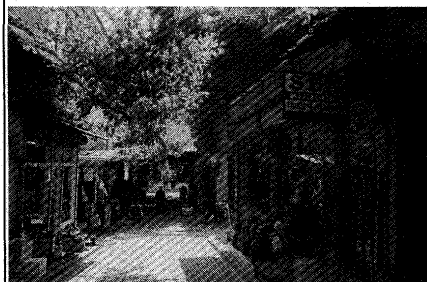
都市コード	05
都市名	Bolu

#### 概要

ボル県の県都。人口 84,565 人（2000 年）。チャルシュは少し高台に位置するため、「上の市場」と呼ばれている。グリッド状にひろがりを持ち、靴屋や衣類の店舗が多い。今後チャルシュ全体を修復予定である。チャルシュの北西部の 6 棟の市場施設があるエリアで月曜市が開催される。市場施設及びその周辺が食料品エリア、北側に隣接するスタジアム脇が衣料品エリアとなっている。露店数は食料品が 240 軒、衣料品が 180 軒。夏は 8 時、冬は 10 時から、日暮れまで営業している。4 月初め頃から農産物が増えるため、店も増える。3 月の調査時には苗木や種を売る店が出ていた。ボル市内にはこの他に 7 つの露天市がある。



市役所前広場をチャルシュから見下ろす。広場の東側にチャルシュへ上がる階段がある。

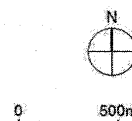
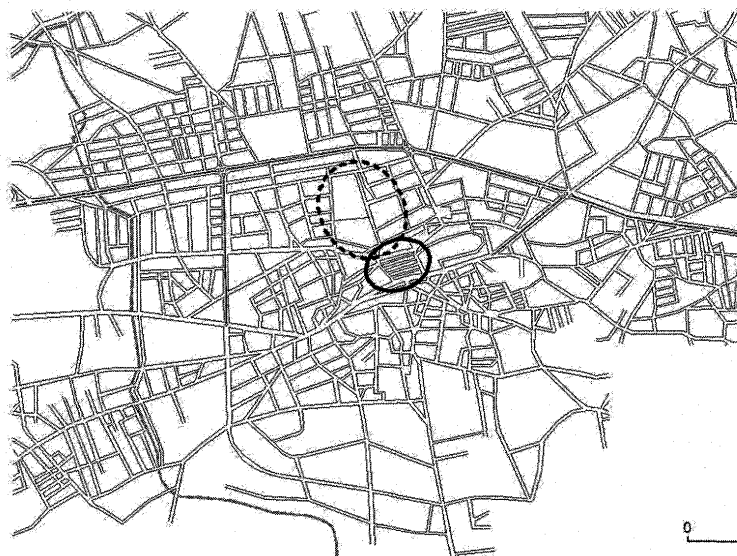


チャルシュには靴屋や衣類の店舗が多い。今後修復される予定である。

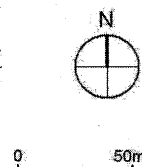
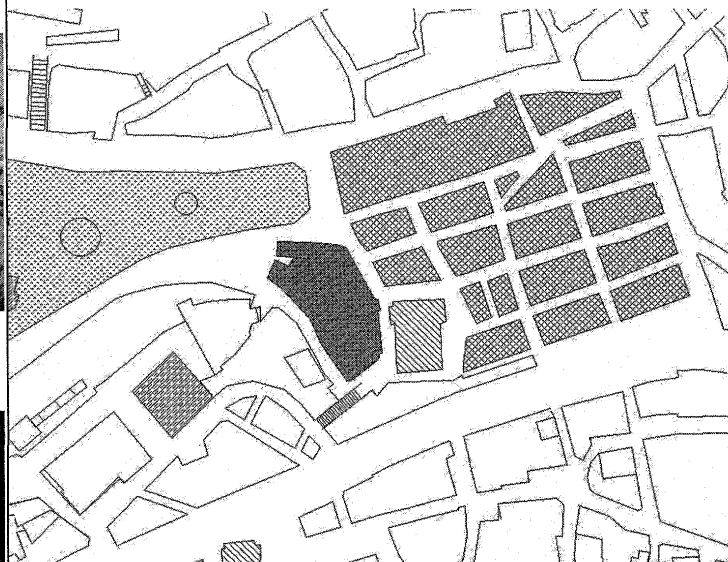


市場施設前にひろがる食料品エリア。多い時には 500～600 人もの人が訪れる。

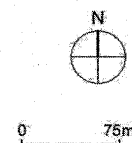
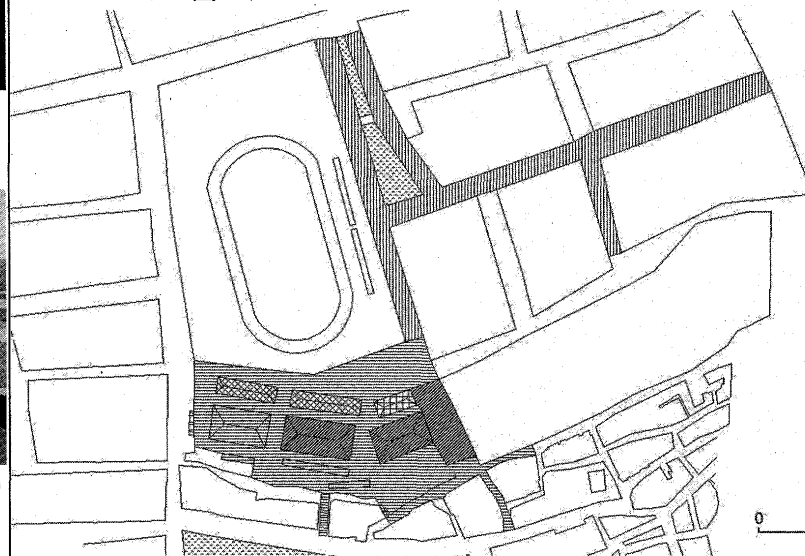
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### バザル エリア図



都市コード	06
都市名	Safranbolu

#### 概要

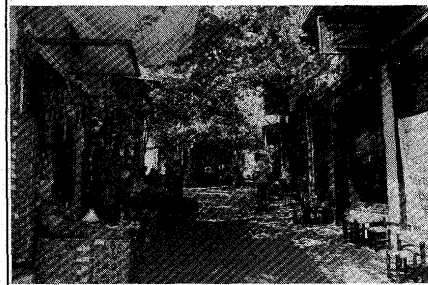
黒海地方の都市で、かつては交易都市として繁栄した。町は谷間の旧市街、高台にある新市街、夏の居住地であったバーラル地区の3地区から構成されている。旧市街全体が世界遺産に指定されており、毎年多くの観光客が訪れる。人口 31,697 人（2000 年）。

チャルシュは谷底に位置し、かつて隊商が宿泊した隊商宿、ジャミイ、ハمامなどが残されている。通りには木造の商店や工房が建ち並ぶ。

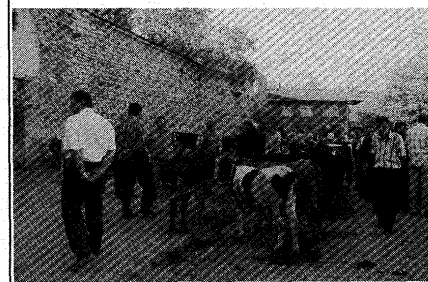
隊商宿の裏の広場では土曜市が開かれる。この市は 350 年以上の歴史があり、冬場は村の生産物 30、衣料 40、野菜 40 の計 110 軒、夏場は 120～130 軒の露店が並ぶ。また、南西部のジャミイ南側の川沿いの広場では動物市が同じく土曜に開催される。露天商の数は 22～25 である。



西側の高台から旧市街を見下ろす。ハン、ジャミイ、ハمام及び木造の商店や工房が建ち並ぶ。

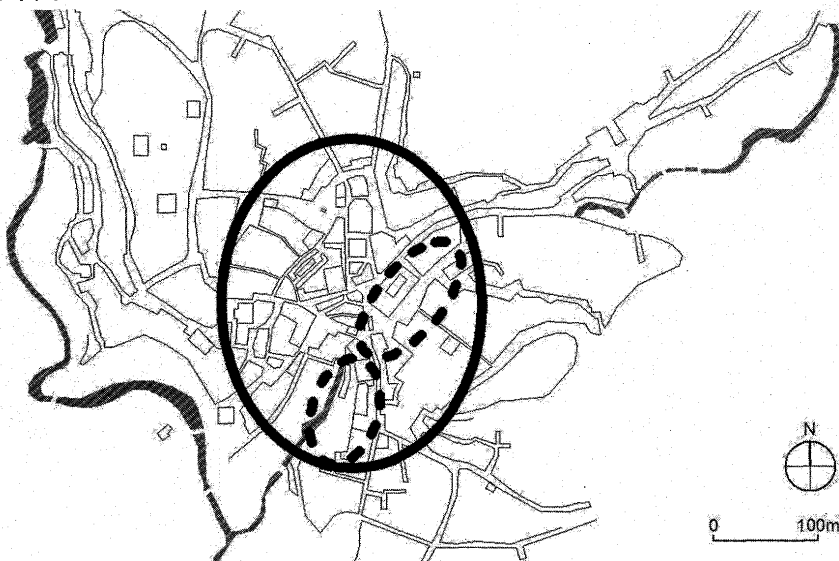


ブドウ棚が、心地好い陰をつくっている。

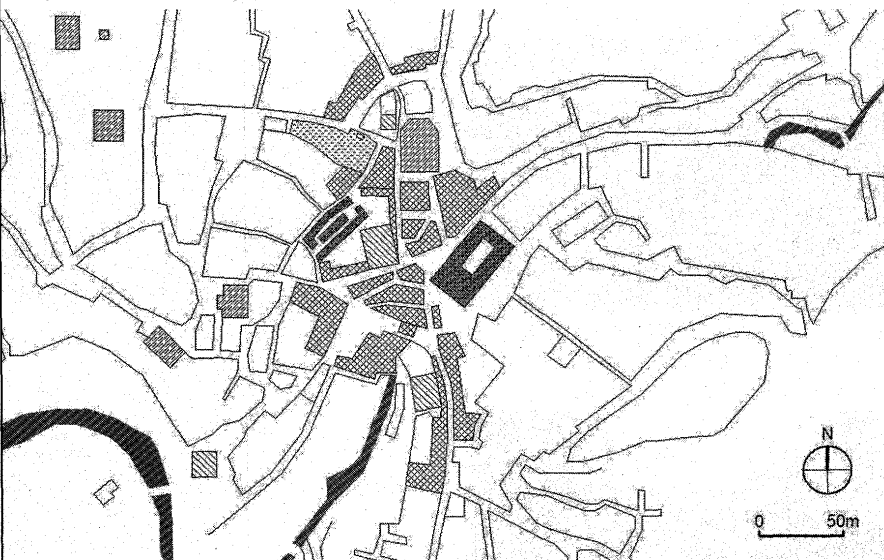


動物市の様子。近隣の村々から牛や羊が連れてこられ、取引されている。

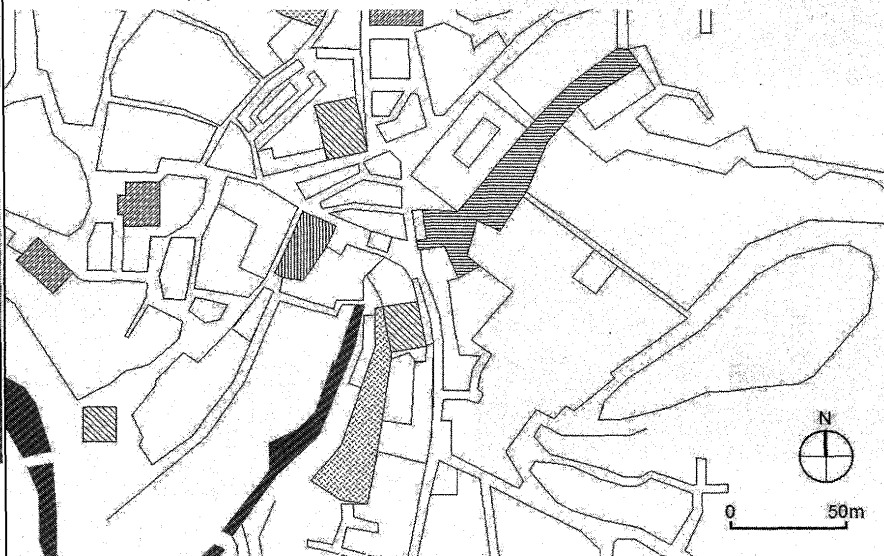
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### バザル エリア図



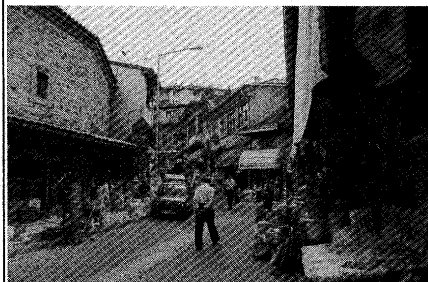
都市コード	07
都市名	Kastamonu

#### 概要

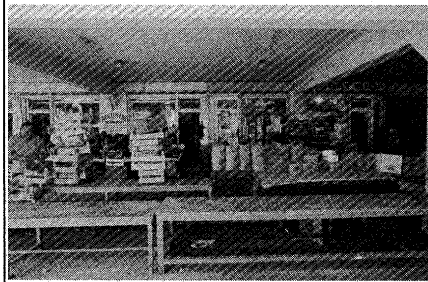
人口 64,750 人 (2000 年)。ビザンツ時代に都市として形成され、市の南東部の岩山に城塞が築かれた。黒海と内陸を結ぶ街道の拠点として発展をしてきた都市であり、中心部にはベデステンと複数のハンが残っており、規模の大きなチャルシュを形成している。ベデステンは 15 世紀後半に造られたもので、ほぼ 1 辺 22 m の正方形プランで 4 辺の中央に出入り口がついている。1994 年に修復され、2007 年の調査時、中央部はカフェとして利用されていた。露天市は水曜と土曜に市役所の隣の屋根付市場施設で開催されている。2 ブロックに分かれたコンクリート造の施設で多層構造になっている。2 日とも露店数は 203 軒であるが季節によって増減はある。



ビザンツ時代の城塞跡から中心部を見下ろす。町は東と西を山に囲まれているため南北に流れる川に沿ってひろがる。

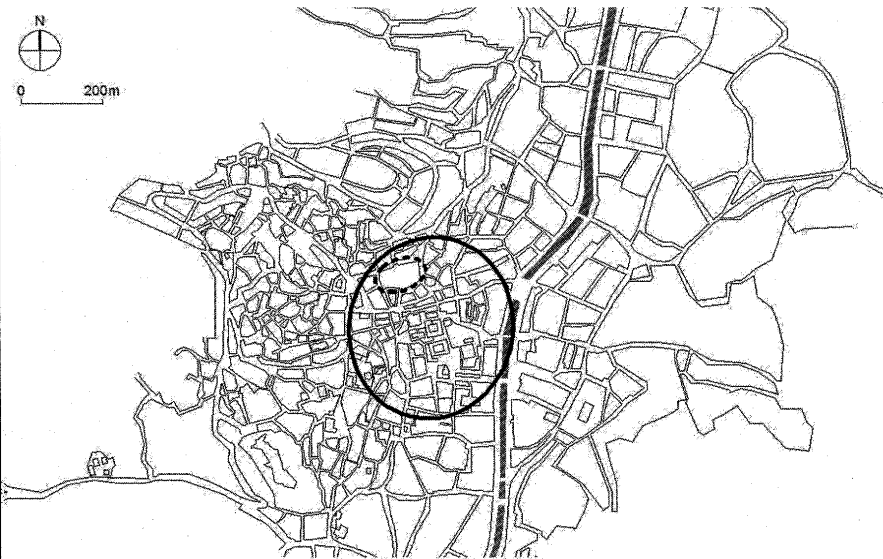


チャルシュ内の通り。写真左、石造の建物はハンの外壁であり、外側の通りに対しても店舗をもっている。

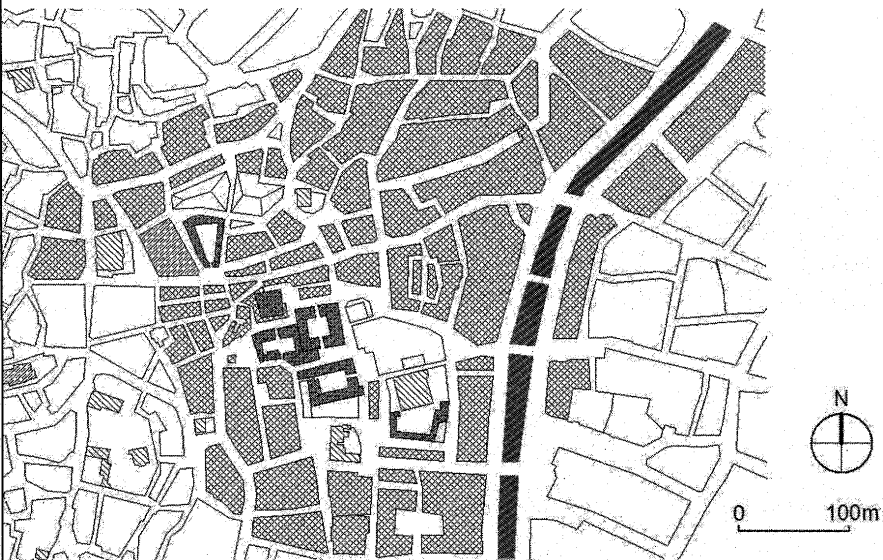


市場施設の中。部分的に常設店舗（写真奥）が附属しているが、各階とも柱のみの空間に写真手前のような陳列台が並ぶ。

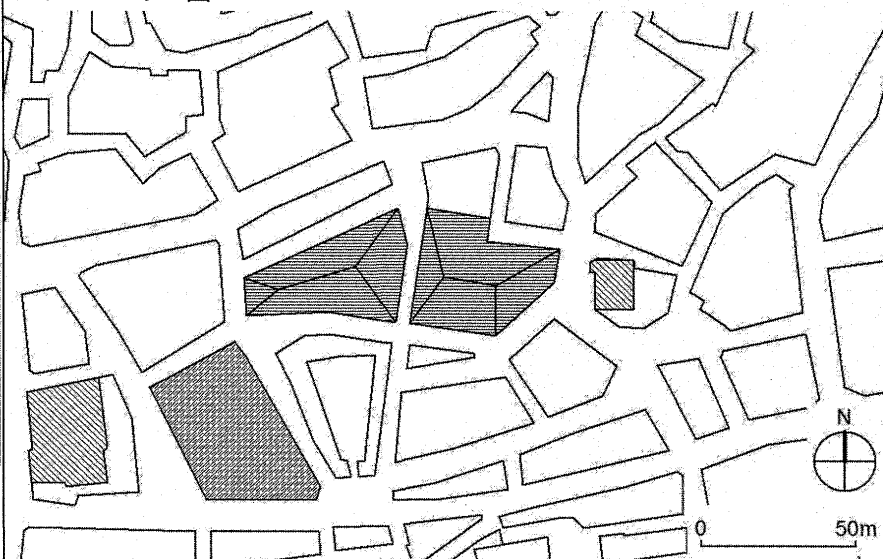
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### バザル エリア図





都市コード	08
都市名	Nallıhan

#### 概要

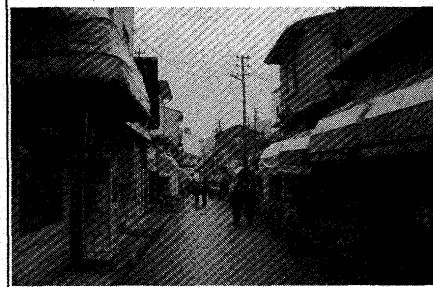
ヒッタイト時代から長い歴史があり、ローマ時代は商業及び軍事上の街道の拠点であった。トルコ人が主権を取って町をつくってきたのは1071年からである。現在は南北に町を貫く国道があり、この東側に旧市街が位置する。

グリッド状の商店街の南西に1595年に建設された Koca Han と呼ばれるかつての隊商宿、ハンがあり、2008年3月現在、修復工事中であった。

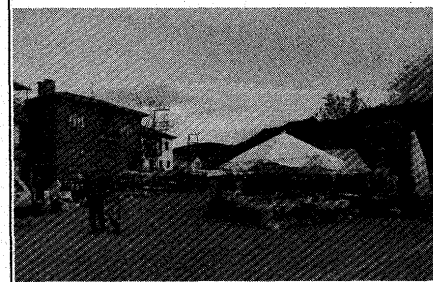
月曜市は市役所前の通りから広場、川沿いの通りにかけて開催される。周辺の村からの農産物販売エリアはもともとハンの中庭であったが、修復工事のためハン前の通りとなっている。全体の露店数は150軒程度であり、季節によって変化する。周辺には80近くの村があるため、露天市の利用者は多い。人口17,181人（2000年）。



南側の山の斜面から町を見下ろす。山に囲まれ、緑豊かな景観である。

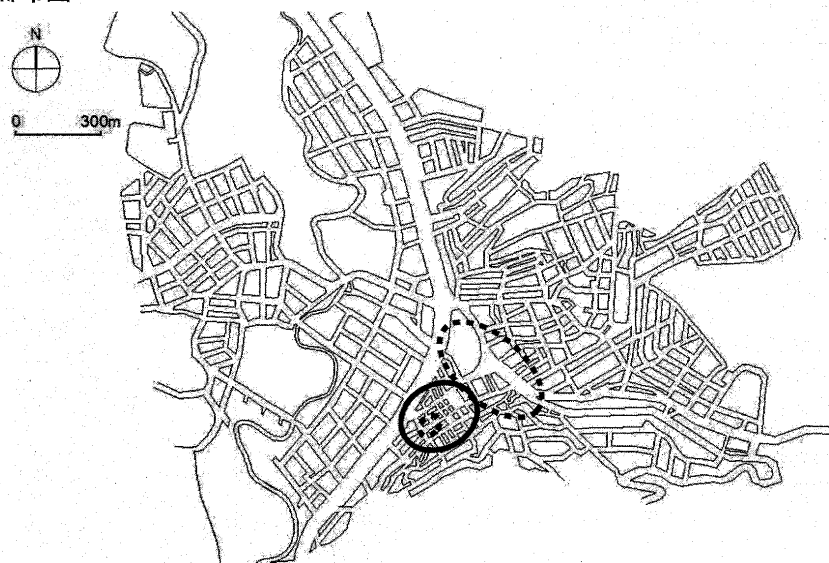


国道から一本奥まった位置にあり、調査時は利用者の少ない商店街であった。1, 2階建ての小さな店舗の連続で構成される。

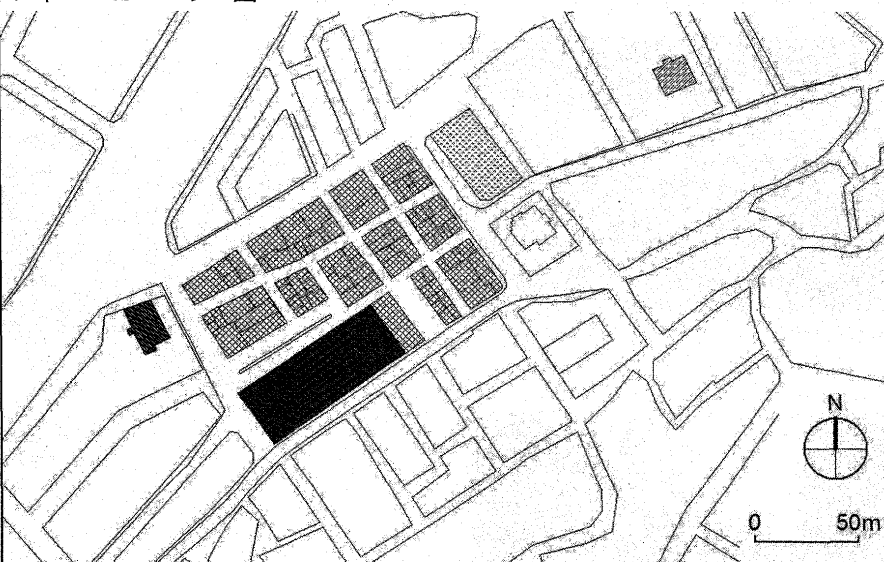


150軒の露店が並ぶ月曜市は広場と川沿いの通りで販売する商品のエリアを分けている。広場には雑貨類の露店が並ぶ。

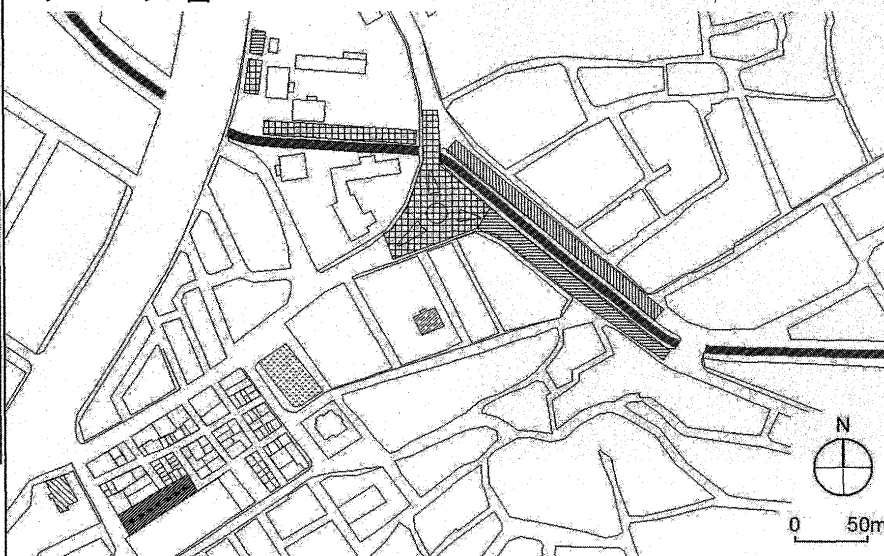
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### パザル エリア図





都市コード	09
都市名	Beypazarı

#### 概要

アンカラから西へ約 95 km の所に位置する。人口 34,441 人 (2000 年)。4 年前から毎年 6 月にベイパザル・日本文化祭というイベントが開催されている。

チャルシュは町のやや北側に位置し、グリッド状にひろがる。南西部には Sulu Han があり、2008 年 3 月現在は修復工事中、2008 年 12 月完成予定である。チャルシュにはジャミイ、工房、チャイハネ、床屋などが軒を連ねる。2008 年夏に向けて、チャルシュ内の道路を修復中であった。

チャルシュの南東部の通り及び隣接する広場で食料品、幹線道路を挟み、塔を有する建物の裏側で衣料品の市が水曜に開催される。店舗数は衣料品 68 軒、食料品 110 軒である。アンタリア方面の村々からも食料品を売りにくる。

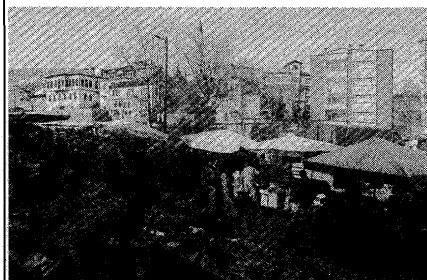
また、チャルシュのやや西の広場では、週末に観光客向けの市が開かれる。



町の東側の丘から町を見下ろす。いくつかの切り立った岩山が町の中にある。

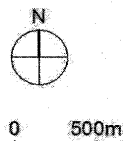


空き店舗は多くはないものの、人が少なく閑散としている。観光客はチャルシュのやや西に位置する広場周辺に集まる。

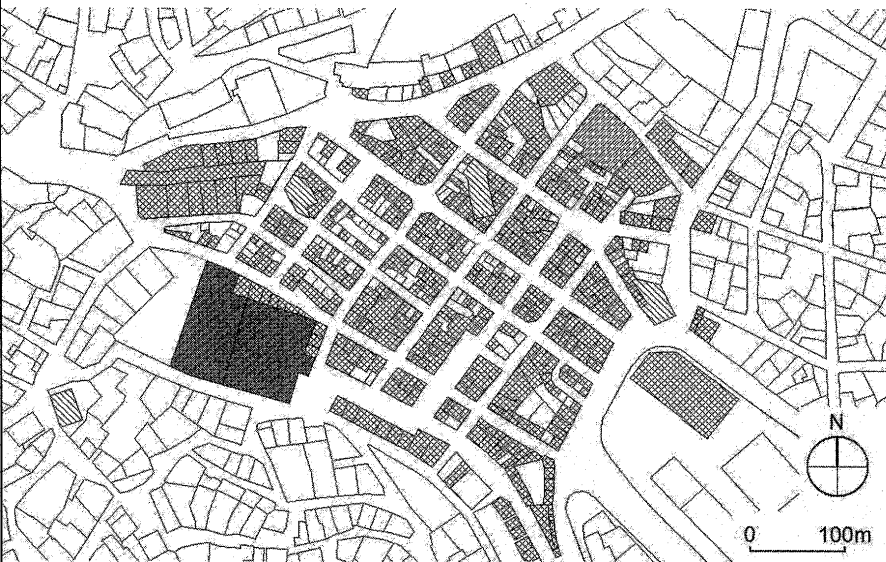


水曜市の食料品エリアの様子。通りに露店が 2 列向かい合わせに並ぶ。

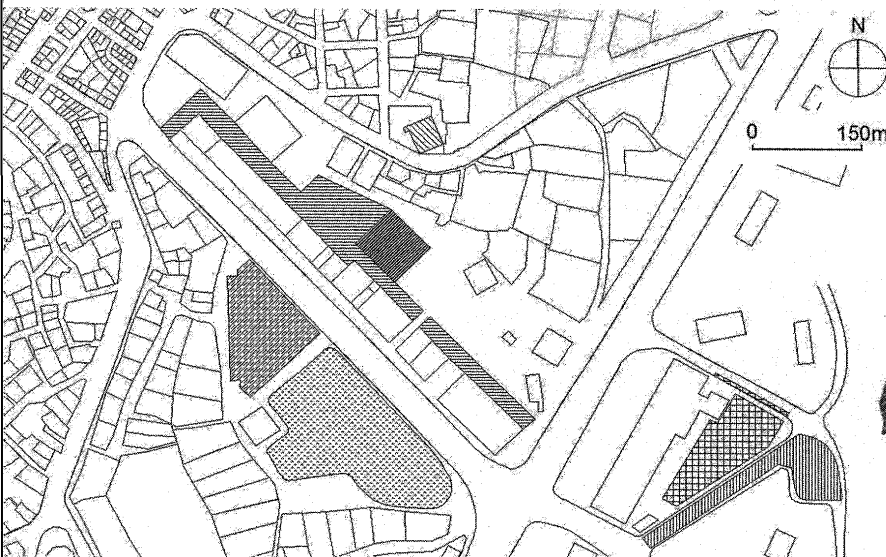
#### 都市図



#### チャルシュ エリア図



#### バザル エリア図



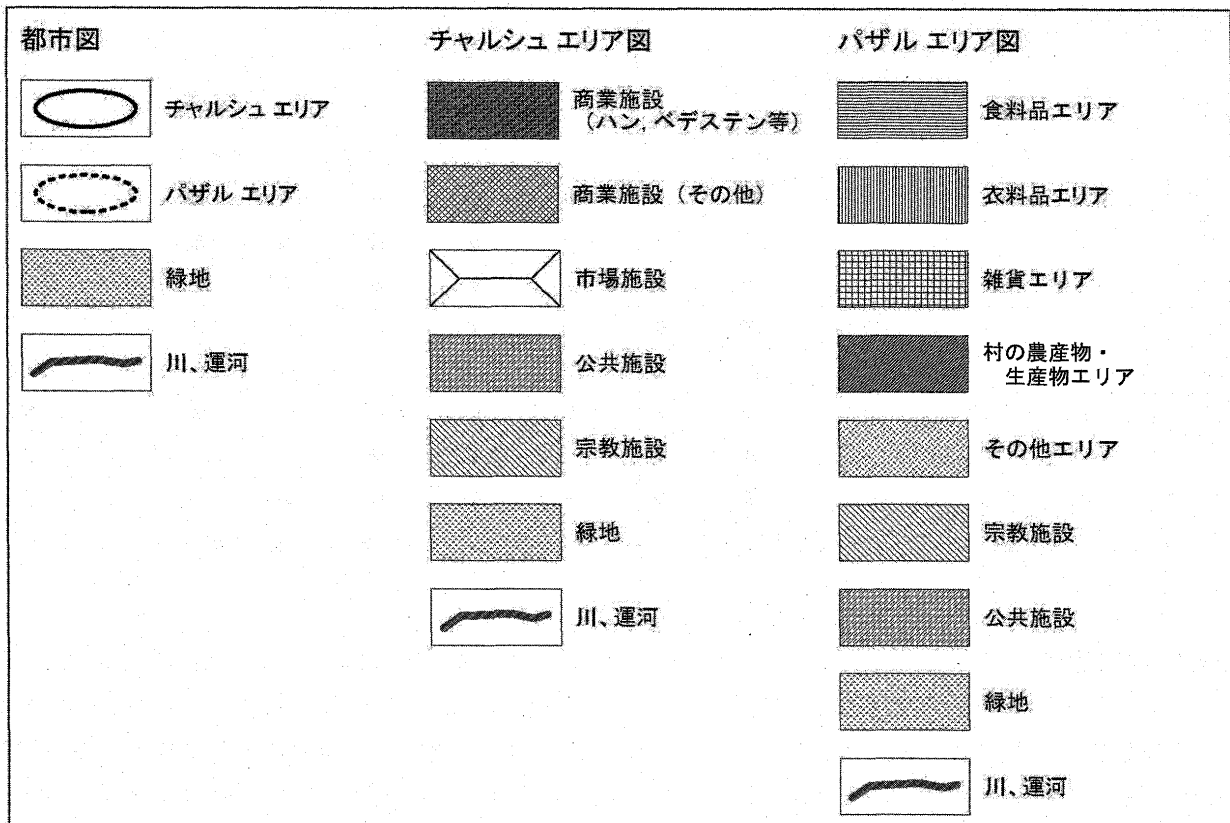


図2. データカード凡例

## 5) 調査関連用語

トルコではトルコ語を使用しており、本研究に関連する主要な用語を文中ではトルコ語のカタカナ表記とする。また、都市名に関しても本文中ではカタカナ表記とする。下記にトルコ語、カタカナ表記、意味の順で示す。

- arasta アラスト 通路型のバザール
- bedesten ベデステン 高価な商品を扱う堅固な市場施設
- cami ジャミィ モスク
- çarşı チャルシュ 商店街, 市場
- çayhane チャイハネ 喫茶店
- hamam ハمام 公衆浴場
- han ハン 隊商宿, 商館
- kale カレ 城砦
- kervansaray キャラバンサライ 隊商宿
- külliye キュリィエ モスクを中心とした複合都市施設
- pazar パザル 露天市, 市場

## 4. 市場空間の構成と空間形態

市場空間は商業活動を主として多くの人が利用する空間を指し、商業以外の機能も併せもつ複合的な場となっている。多様な施設とそれらをつなぐ街路や広場も含め、1つのまとまった空間として捉えることができる。どのような構成内容であるか、空間形態及び施設について都市別に整理したものが表1である。

空間形態からみると、チャルシュと呼ばれる常設の商店街とバザルと呼ばれる仮設の露天市の2つに大きく分類できる。この2つが同時に都市中心部に存在する場合と離れて存在する場合とあるが、まずはそれぞれの空間形態と構成について述べる。

### 1) チャルシュ

常設の伝統的な商業施設単体もしくはその複合体及び街路に連続して並ぶ店舗<sup>4</sup>群を指し、その領域は都市によっては曖昧なものもあるが、1つのまとまった空間として認識されている。

表 1. 都市別市場空間の構成一覧<sup>5</sup>

都市コード	都市名	都市部の人口 (2000 年)	常 設					仮 設				
			伝統的な 商業施設	店舗群	商業以外の機能をもつ施設			露 天 市				
					ジャミィ	ハمام	行政施設	街 路	広 場	施 設	開催日	露店数
02	Göynük	4,984		●	●	●	●	●	●	●	月	90
03	Taraklı	4,146	○	●	●	●	●	●	●	●	土	80
04	Mudurnu	5,955		●	●	●	●	●	●	●	土	120
05	Bolu	84,565	●	●	●	●	●	●	●	●	月	420
06	Safranbolu	31,697	●	●	●	●	○		●		土	120
07	Kastamonu	64,750	●	●	●	●	●			●	水・土	203
08	Nallıhan	17,181	○	●	●		●	●	●		月	150
09	Beyazıt	34,441	○	●	●	●	●	●	●		水	178

※表中の該当する欄に●をマークし、○は該当する施設はあるものの廃墟、もしくは修復工事中等、本来の機能を果たしていないものをマークしている。<sup>6</sup>

### ①伝統的な商業施設

トルコにおける伝統的な商業施設として屋根で覆われた堅固な施設、ベデステン、アラスタ、ハンの3施設がある。これらの多くはオスマン帝国時代に建設され、チャルシュの核的な存在となっている。今回対象とした8都市のうち、ベデステンはカスタモヌ1都市、アラスタはサフランボル1都市、ハンは6都市に残り、ナルハンとベイパザルでは修復工事中、タラクルでは廃墟となっているがいずれ修復予定といった状況のものもあるが、ボル、サフランボル、カスタモヌでは現在も商業施設として活用されている。

ベデステンはもともと高価な商品を取り扱う商業施設として建設され、チャルシュ内の店舗が木造の時代からベデステンは石造の耐火建築として造られ、施設内の商品を守ってきた。施設は小ドームの連なる大空間の中に小さな店舗が並ぶ形式が多く、店舗ごとの施錠だけでなく、ベデステン自体の出入り口の施錠管理も行われている。写真1はカスタモヌのベデステン内部、2007年調査時の写真である。このベデステンは4方向に出入り口をもち、9つの小ドームによって一体化した空間がつくられている。

アラスタは街路に店舗が連なり、一体化した施設になっているものである。イスタンブールのエジプト市場のように通路に屋根がつき、1つの施設となっている場合もあるが、サフランボルのアラスタのよ

うに通路に屋根はないものの店舗は壁を共有し、1つの施設として共通の出入り口をもつものもある。ジャミィと共に複合的な施設キュリエの一部として建設され、ジャミィ等、他の施設の維持のための収入源としての役割を果たすアラスタも多い。イスタンブールのエジプト市場は隣接するイエニ・ジャミィを中心とするキュリエの一部である。

ハンは都市内の隊商宿の役目を果たすために建設されたものであり、取引業務を行うオフィス、倉庫の役割も担っている。空間形態としては中庭を囲む形で店舗が並び、2層のものがほとんどである。大規模な商業都市となると、複数のハンが存在し、ブルサの Koza Hanı (繭のハン)<sup>7</sup> のようにかつて扱っていた商品がハンの名前になる場合や、石造の堅固な様子からボルの Taş Hanı (石のハン) や、規模の大きさからナルハンの Koca Han (大きなハン) などと呼ばれているものもある。また、写真2のベイパザルのハンのように近年、修復工事がなされ、再生に向けて準備しているものもある。現在、調査地以外の都市に関してもハンの多くは、オフィスや倉庫の他、店舗、作業場として活用されている。写真3はカスタモヌのハンの中庭である。2007年夏の調査時、中庭はカフェとして利用されていた。サフランボルのハンの1つはホテルとして再生している。また、カスタモヌの工芸品の店舗が並ぶ旧神学校の施設のように、元は宗教施設であったものを商

業施設として活用する例もみられる（写真4）。



写真1. ベデステン内部  
(カスタモヌ)



写真2. 修復中のハン  
(ベイパザル)



写真3. ハンの中庭  
(カスタモヌ)



写真4. 工芸品の店舗が並ぶ  
旧神学校の施設  
(カスタモヌ)

## ②商店街

街路に連続して店舗が並ぶものであり、多くが街路の両側に向き合う形で並ぶ。傾斜地等の地形や周辺環境によっては、片側のみ並ぶ場合もみられる。

### a. 店舗

店舗の建築形態は木造で1, 2階建てのものがほとんどであり、1階が店舗、2階が倉庫として利用されている。内容は日用雑貨店や靴屋、八百屋、パン屋といった以前から長く営業してきたものから携帯電話屋といったここ数年新たに進出したものまで幅広い。また、チャルシュの中にはコミュニケーションの場として、チャイハネ、食堂、床屋が点在している。これらの店舗は単にお茶を飲むため、食事をするため、髪を切るためだけに利用する人もいるが、調査時に観察し、ヒアリングをしたところ、ここに滞在し、交流するために集まってくるという人が多く、チャルシュ内、あるいは都市内の情報交換の場として重要な機能を果たしている。床屋は髪を切るだけでなく、髭の手入れのためにも利用し、ジャミィへの礼拝前に手入れをする男性も多いようである。図3はベイパザルのチャルシュ内の交流施設としてジャミィ、ハمام、チャイハネ、床屋及び工房（次項参照）をマークしたものである。調査時、チャル

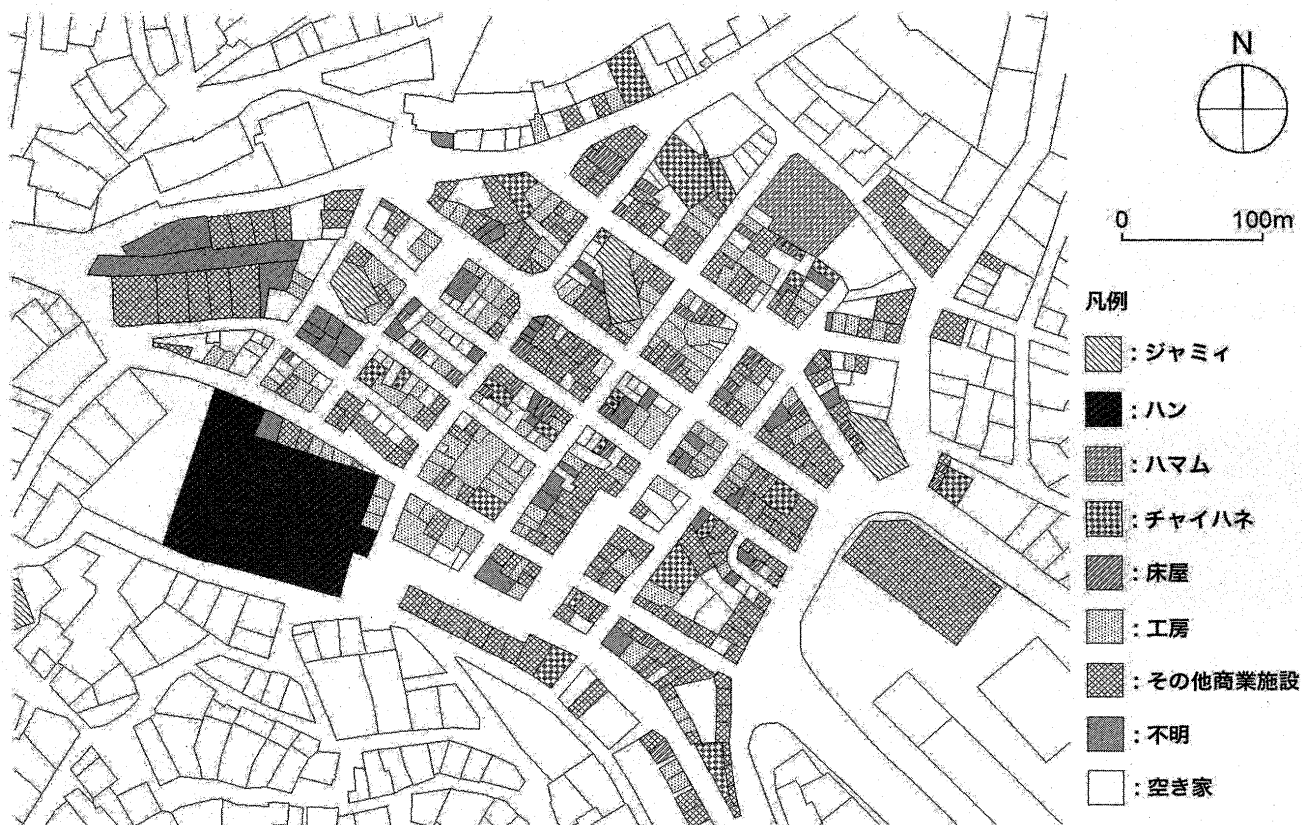


図3. ベイパザルのチャルシュ平面図

シュ内の街路床面を工事していたために通行できない通りもあり、用途の確認ができなかった箇所もある。チャルシュの平面形態は並行する複数の通りとそれらに直行する通りによってグリッド状となっている。ベイパザル以外の都市においてもギョイヌック以外は同様にグリッド状の形態をとっている。



写真5. チャルシュ内のチャイハネ（ベイパザル）



写真6. 木造の店舗が連なるチャルシュ（タラクル）

## b. 工房

チャルシュには、販売用の店舗同様小さな間口の中で作業をする工房がある。靴を修理、あるいは型を取るところからすべて手作業で行う靴屋や革製品の加工屋、ドアの取手などの金物を扱う店、時計等の精密機器を扱う店などがみられる。馬具や蹄鉄など、近隣の村からの客を相手に営業する店もかつては多かったようである。サフランボルは同業種の職人たちが集まって営業しているが、前述の馬具同様、需要が減っており、職人たちの高齢化とともに伝統技術の伝承が途絶えてしまうのではないかという問題も抱えている。一方でチャルシュの伝統的な空間を保存し、店舗を地域の産業の活性化に役立てようと工芸品を扱う店へと内容を変えてリニューアルしていく店もある。



写真7. チャルシュ内の靴屋。すべて職人の手作業。（ベイパザル）

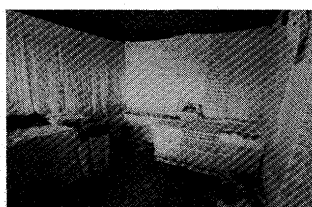


写真8. チャルシュ内の工芸品の店。店舗を修復し、伝統的な工芸品を週末のみ販売している。（タラクル）

## c. その他の施設

チャルシュには商業以外の機能を有し、多くの人が利用する施設として、ジャミィ、ハمام、行政施設の3つがある。ジャミィはベイパザルのように（図3参照）店舗の間に複数存在する場合やムドゥルヌのようにチャルシュに隣接し、独立した形で建っている場合がある。ジャミィに礼拝へ行く前にチャイハネでお茶を飲んで集ったり、床屋で髭の手入れをしたり、と、チャルシュとの関わりも深い。ギョイヌックのチャルシュ・ジャミィの場合は、毎週金曜日の礼拝前にジャミィ前の広場で市長を中心に商店街の店主が一堂に会し、商売の繁盛、町の発展を祈り、ジャミィと商店街との深いつながりがうかがえる。ハمام（写真9）はトルコ式の公衆浴場であるが、体を清めるだけでなく、近所の人たちとの交流の場として機能している。行政施設は、サフランボル以外、7都市がチャルシュ内あるいは隣接する形で市役所が位置している（写真10）。これは都市の中心にチャルシュがあるためであり、サフランボルの場合は本研究で対象としているエリアは旧市街のみで、市役所のある新市街は山の上の離れたところにあるため、チャルシュ内に行政施設がないこととなる。旧役所の建物はチャルシュ内に残っているが行政機能を有していないため、表1では○でマークしている。

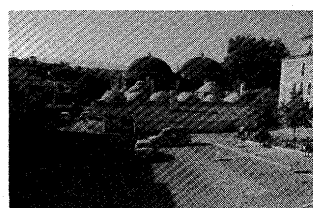


写真9. チャルシュの入り口に位置するハمام（サフランボル）



写真10. 市役所（ギョイヌック）

## 2) 露天市

露天市は週に1, 2回、街路や広場に露店の並ぶ定期市で、パザルと呼ばれている。仮設の市場空間である。営業時間は朝から夕方まで陽が上っている間であり、商品がなくなれば早く店じまいする店もある。営業時間だけでなく、店舗数や商品内容も季節によって異なり、魚屋のように暑い季節には取り



扱いが難しいものは冬場のみの営業となる。表1の露店数は、平均的な数を記しているため、開催日によって増減がある。全体的に冬よりも夏に店舗数が多くなり、営業時間も長くなる傾向がある。また、どの市也大まかなエリア分けがされており、野菜や果物、乾物などの食料品を扱うエリア、衣類や靴などを扱うエリア、日用雑貨等を扱うエリアと分かれている。

## ①空間形態

### a. 街路

通常は車の通行可能な通りを露天市の開催日は一日通行を遮断し、通りの両側もしくは片側にテントを張った露店が並び、また、歩道が広い場合には、車道には通常通り車の往来があり、歩道に露店が並ぶものもある。



写真11. 通りの両側にテントが並び（ムドゥルヌ）

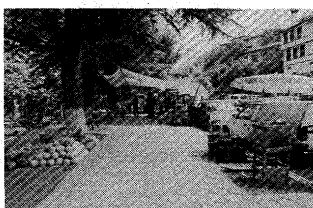


写真12. 歩道に商品を陳列している（ギョイヌック）

### b. 広場

広場が市場へと変化し、露店だけでなく、周辺のチャイハネ等も賑わいをみせる。広場は通常は駐車場として機能し、パザルの開催日のみ市場空間として転用される場合が多く、ムドゥルヌもその1つである（図4、写真13）。

ギョイヌックの月曜市の場合（図5（次頁）、写真14）は、ハمام前の広場には衣類や日用雑貨の露店が並び、市役所横の広場には食料品の店が並びといっ

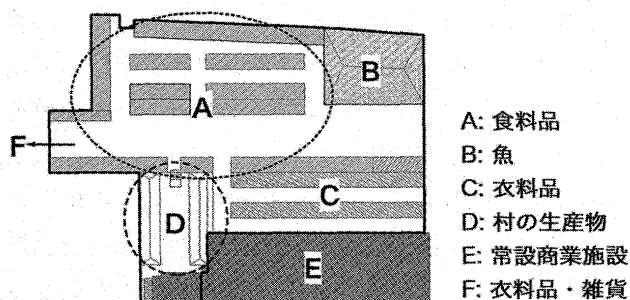


図4. ムドゥルヌ土曜市の中心となる広場内エリア

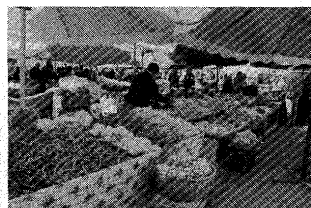


写真13. 土曜市の広場の様子（ムドゥルヌ）



写真14. 月曜市のハمام前広場の様子（ギョイヌック）

たように2つの広場でエリアを分けている。また、2つの広場以外にも幹線道路の歩道に露店が並び、パザルエリアに隣接するチャルシュと共に周辺の村々から集まった客で祭りのような賑わいになる。

### c. 施設

屋根と柱、あるいは陳列台が用意されている市場空間がある。タラクルの場合は食料品関連全般をカバーする大屋根を複数の柱が支えているタイプで、通常は駐車場（写真15）として使用されている。カスタモヌの場合はコンクリート造の規模の大きな市場施設を建設し、その中に露店が並ぶもので、立体構造になっている。大都市ゆえの土地利用であり、チャルシュ内の車の交通量も多いため、施設化することで隔離されているとも考えられる。ギョイヌック、ムドゥルヌ、ボルはいずれも近郊の農村から生産物を持参する村人のために屋根と陳列台を用意しているものである。販売にくる村人はどこも女性が多く、野菜や自家製のチーズ、はちみつなどが売られている。ボルの場合は、巨大なホール型の施設になっており、壁や出入り口もついた市場施設となっている（写真16）。



写真15. 土曜以外は駐車場として機能している（タラクル）

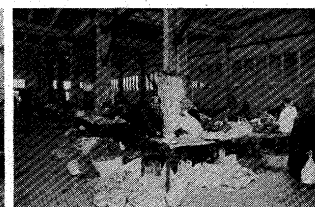


写真16. 村の生産物専用の屋根付市場空間（ボル）

## ②露店の内容

取り扱う商品の内容は、前述の通り、露店数や営業時間と同様に、季節によって変動がある。露店形式での魚屋は夏の暑さには向かないため、冬場から

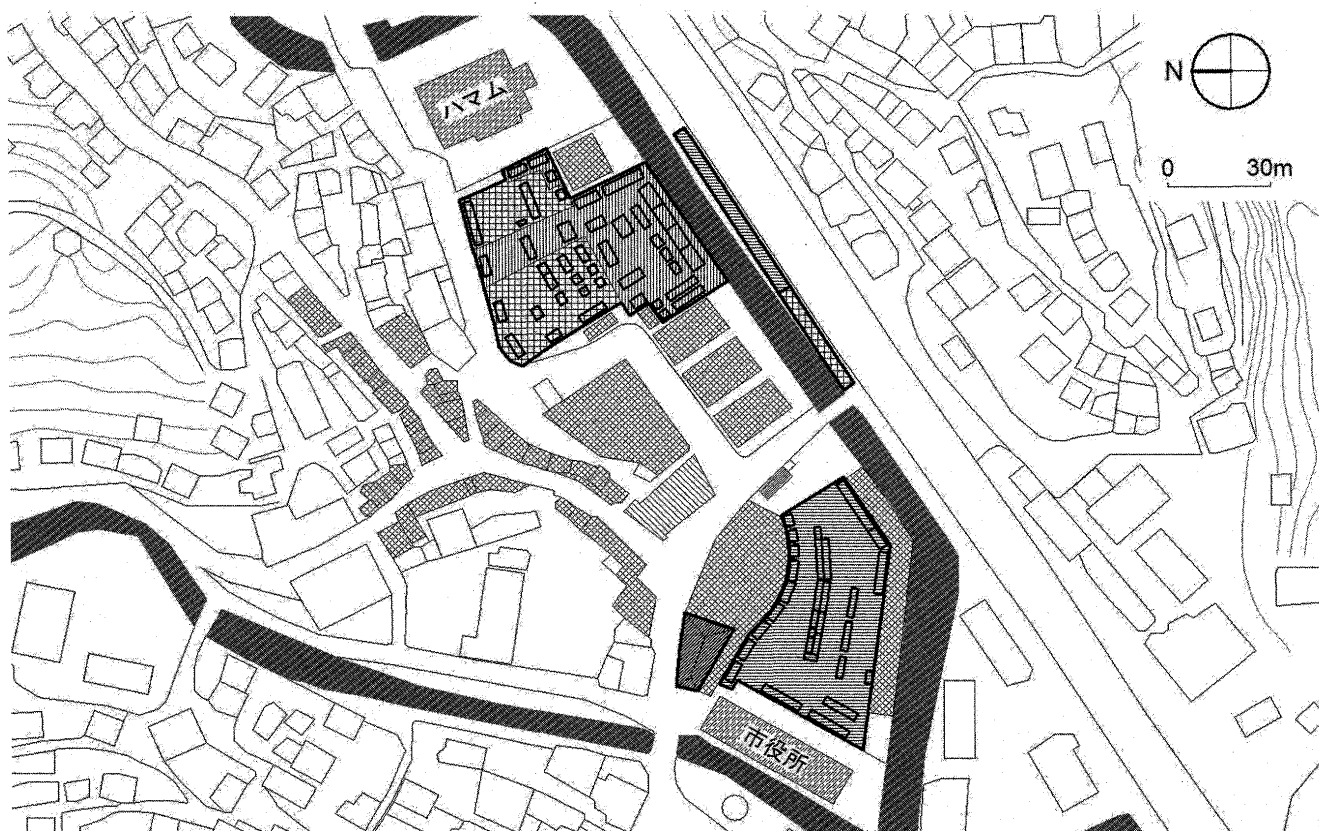


図5. ギョイヌックのチャルシュと月曜市のゾーニング及び露店配置図<sup>8</sup>

春にかけての開店となる（写真17）。商品を眺めると季節感の感じられるものが店先に並び、季節ごとの楽しみがある。露店数の割合が多いのは、野菜や果物を扱う食料品関係、ついで日用雑貨や衣類である。また、いずれの町も近郊の村の農産物や生産物を扱うエリアをもっており、周辺の村々の拠点としても重要な役割を担っている。サフランボルの場合、牛や羊などの家畜を売買する動物市も毎週土曜に開催されており、近郊の村々からトラックに乗って動物が運ばれてくる（写真18）。



写真17. 冬場のみの魚屋  
(ムドゥルヌ)

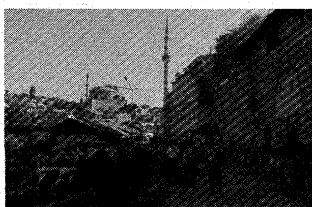


写真18. 動物市  
(サフランボル)

## 5. 都市センターとしての市場空間

市場空間は4章でみてきたように常設のチャルシュと仮設の露天市があり、チャルシュの構成内容としては伝統的な商業施設や店舗、工房、ジャミィ、ハママ、行政施設が挙げられる。これらの施設の存在から、都市センターとして商業機能をはじめ、宗教機能や行政機能を果たしていることがわかる。また、露天市では週に1度（カスタモヌは2度）、都市内外から多くの人が集まり、活発な商業活動がなされるが、商品の売買だけでなく、情報交換の場としても有効に活用されている。露天市だけでなく、チャルシュ内のチャイハネやジャミィ、ハママもコミュニケーションの場として多くの人が集い、利用しているため、市場空間はもの、ひと、情報の重要な交流拠点として機能していることがわかる。以下、市場空間が都市センターとしての役割をどのように担っているか、都市構造、交流空間、伝統的空間形態の3つの切り口から8都市の事例と共に考察する。

## 1) 都市構造

ギョイヌック、タラクル、ムドゥルヌの3都市は、都市の規模が小さく、都市全体の構造としては主軸となる幹線道路及び都市センターがわかりやすく、アクセスしやすい配置となっている。3都市に次いで小規模な都市ナルハンの場合は、現在の都市構造から幹線道路を主軸にみると市場空間は幹線道路から一本入り込んだ位置にあるものの、市場空間の中に式典の行われる広場があり、他の諸施設と共に都市センターとしての役割を果たしている。

カスタモヌ、ボルのように都市の規模が大きくなると市場空間の規模も拡大する。都市構造からみると幹線道路は複数延び、市場空間の伝統的な空間形態は維持されながらも、隣接して近代、現代の新しい建造物が建ち並び、新旧の要素が入り交じる形で都市センターが形成されている。露天市は本稿で対象とした中心部のものだけでなく、複数の露天市が住宅地など中心部以外で開催されている。露天市だけでなく、宗教施設や他の公共施設なども中心部のみではなく、他のエリアにも存在している。

ベイパザルとサフランボルは多くの伝統的な木造民家が修復、保存されているエリアがあることで共通項がみられる。伝統的な町並みや木造民家を改修した住宅を博物館として公開するものやペンションとして再生するものなどがあり、多くの観光客を惹きつける。この住宅群はベイパザルの場合はチャルシュの西側奥に隣接するが、チャルシュとは切り離された空間であり、週末になると都市センターではなく、この住宅群の中心の広場に観光客向けの露天市が立ち、都市外から訪れる観光客で賑わう。隣接するチャルシュは店舗が閉まっていることもあり、静まり返る。幹線道路は都市内交通網の主軸となる大通りとながり、露天市は幹線道路を挟んで西側の広場で野菜市が、東側の駐車場では衣類、日用雑貨等の露天市が開催されている。

サフランボルの場合、伝統的な住宅群は旧市街全域にひろがり、全体が世界遺産として登録されている。チャルシュは旧市街の中心部にひろがり、露天市もチャルシュ内の広場で開催される。旧市街のみで都市を捉えるならば、市場空間は都市のセンター

であるといえるが、現在の都市センターとしての機能を勘案すると、山の上の新市街に都市センターがあり、谷底の旧市街は観光の拠点としての性格が強くなる。

他の7都市の場合は旧市街、新市街の明確な境界線はなく、新旧の要素が都市内部に混在しながら、発展している状況であるため、サフランボルのみ特殊な構造をとりながら、伝統的な市場空間が保存されている事例である。

## 2) 交流空間

市場空間が都市センターとしての役割を果たす機能の1つに交流機能がある。都市内外から多くの人が集まり、コミュニケーションを図ることのできる場が、市場空間内に多数用意されている。これらの交流空間は人を集め、滞在させる場であるが、人々が定期的に目的をもってくることができ、あるいは何度も利用したくなる要素をもっている。日常の交流空間として毎日利用するものから、週に数回、週に1回、季節に1度、年に1度といった特別な利用まで、日常的なものから非日常的なものまで、交流をはかる要素が市場空間には点在している。日常的に利用度の高いものから順にチャイハネ、ジャミィ、床屋、ハمام、露天市、イベントが挙げられる。各交流空間の写真を表2にまとめる。

チャイハネ(写真a-1~8)は、チャルシュ内にも多く点在し、日常生活に欠かせない場となっている。チャイハネと店舗や工房とはインターフォンでつながっており、配達システムができあがっている。チャイハネでは、お茶を飲み、語り合う人もいれば、店によってはカードゲームを楽しむためにやってくる客も多い(写真a-1)。どこの都市においても基本的に利用客は男性であり、女性の姿は稀である。室内だけでなく、店先の路上(写真a-2, 3)や広場(写真a-4, 5)、アラスタ内の街路(写真a-6)、ハンの中庭(写真a-7)、露天市の一角にできる仮設のチャイハネ(写真a-8)など特に気候のよい時期は屋外のチャイハネが賑わいをみせている。

ジャミィ(写真b-1~4)は礼拝のために人が集まる。一日5回礼拝の時間があり、通常、最寄りの

表 2. 交流空間写真一覧<sup>9</sup>

a. チャイハネ			
			
a-1. Bolu	a-2. Beypazarı	a-3. Beypazarı	a-4. Mudurnu
			
a-5. Göynük	a-6. Safranbolu	a-7. Kastamonu	a-8. Taraklı
b. ジャミイ			
			
b-1. Göynük	b-2. Göynük	b-3. Bolu	b-4. Kastamonu
c. 床屋		d. ハمام	
			
c-1. Kastamonu	c-2. Göynük	d-1. Mudurnu	d-2. Mudurnu
e. 露天市			
			
e-1. Beypazarı	e-2. Beypazarı	e-3. Göynük	e-4. Safranbolu
f. イベント			
			
f-1. Nallıhan	f-2. Göynük	f-3. Göynük	f-4. Safranbolu



ジャミィで礼拝を行う。チャルシュ内のジャミィはチャルシュで働く人々が利用している。特に金曜の昼は中心部のジャミィに多くの人が集まる。ギョイヌックではチャルシュの入り口にチャルシュ・ジャミィがあり、ここに町中の男性が金曜昼に参集する。ジャミィ内での通常の祈りの前にジャミィ前の広場(写真b-1)で市長を中心に町の発展と商売繁盛のために祈りを捧げる。ジャミィ前には宗教関連の書籍やグッズを売る露店が出ることもあり(写真b-2)、前庭や中庭に設置されている水場(写真b-3)と共に人が滞在する要素となっている。水場はジャミィへ入る前に身を清めるために必要な付属施設である。ジャミィの内部をみると、メインのホール空間は通常、男性の祈りの場(写真b-4)となっており、女性の祈りの場は2階やカーテンで仕切られた一角に設置されている場合が多い。ジャミィの中で子ども達にコーランを教える教室がある場合もあり、多くの人が日常的に利用する場となっている。

床屋(写真c-1, 2)は、チャルシュの中に点在しているが、特にジャミィ付近の床屋ではジャミィでの礼拝前に立ち寄り、髭の手入れをする。髭の手入れをせずに、ただお茶を飲みながら礼拝の時間を待つために立ち寄る光景もみられた(写真c-2)。

公衆浴場のハمام(写真d-1, 2)は、日本の銭湯同様、近年は各家庭に風呂があるために利用者が減っている現状がある。しかし、蒸し風呂やあかすりを利用する人など、現在も各都市で利用されている。大きなハمامでは女性用、男性用と2つに分かれているが、小さなものになると曜日によって使い分けられている。特に女性達はここでのおしゃべりを楽しみに集まり、浴室の中だけでなく、脱衣場のホール(写真d-2)でお茶を飲みながら、ゆっくりと時間を過ごしている。

露天市(写真e-1~4)は、周辺の村々からも売り手、買い手が集まり、その都市だけでなく周辺の村々にとっての交流拠点としても重要な役割を果たしている。商品は食料品(写真e-1)、衣類(写真e-2)や雑貨など日常生活に欠かせないものがエリアを分けながら並ぶ。村人の販売エリアは、ギョイヌック(写真e-3)、ムドゥルヌ、ボルの場合、特別に屋根

のついたエリアが確保されており、自家製のチーズやはちみつが並ぶ。いずれも女性ばかりの一角であり、昼ご飯を持参し、隣の店と話をしながら、一日のんびりと過ごしている。苗木(写真e-4)など、季節によってはエリアを拡張して商品が並び、動物市の場合は(文中の写真18参照)値段を交渉するために人の輪ができる。

イベント(写真f-1~4)は、非日常的な市場空間の利用法である。ナルハンの中心広場での年に1度の式典(写真f-1は戦没者追悼の式典)やギョイヌックの辻広場での割礼式の準備(写真f-2)や、同じくギョイヌック、チャルシュでのパン屋開店祝いの式典(写真f-3)など、調査時に遭遇した光景である。ギョイヌックの割礼式の準備は、チャルシュの通り横の辻広場で割礼式のために集まった親戚や近所の女性達が食事の準備をしている様子である。多くの人が集まるために住宅の台所では狭く、広場の水場を利用して、食材を洗い、準備している。パン屋の開店祝いの式典は、隣町にあたるタラクルの店の支店として開店するため、タラクルの市長をはじめ、関係者がバスを仕立てて祝いにかけつけ、ギョイヌックの市長と商店主達と共に店の成功を祈っている様子である。祈りを捧げた後、近くのチャイハネでパン屋の商品であるクッキーが振る舞われた。この他、特別な祭りが開催されているわけではないが、伝統的な町並みが多くの観光客(写真f-4)を惹きつけ、市場空間が活気づく場合もある。特に週末になると、周辺の緑豊かな自然環境と併せて観光に訪れる人も多く、市場空間も賑わいをみせる。観光客向けに工芸品を販売する店も増えている。

### 3) 伝統的空間形態

チャルシュの伝統的な空間形態として木造1, 2階建ての店舗群の連続が特徴として挙げられる(写真19)。1階が店舗または工房として使われ、2階がある場合は倉庫になっているものがほとんどである。隣の店と壁を共有している長屋形式のものもあり、いずれも間口の狭い空間になっている。また、8都市の平面形態をみるとギョイヌック以外の都市はグリッド状に縦横の通りが張り巡らされている点が共



通点として挙げられ、面的なひろがりを見せている。ギョイヌックのチャルシュは、尾根沿いの斜面地に位置しているためにメインの通りと十字に交わるサブ的な通りの2本で構成されている。

また、チャルシュの業種をみると、販売専門の店舗だけでなく、作業場を兼ねているものや作業場のみの工房になっているものがある。作業場を兼ねている店舗としては、靴や鞆などの革製品が多くみられた。馬具(写真20)や金物など、伝統的な技術を要する工房も残っており、都市では必要のなくなった馬具などは周辺の村人のために存続している。いずれも高齢化、需要の低下による後継者不足のため、伝統技術が途絶えてしまうという問題点も抱えている。



写真19. 木造の店舗群が連なるチャルシュ (ギョイヌック)

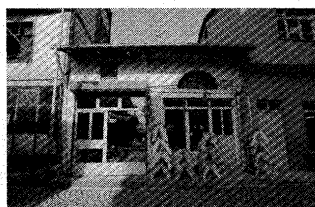


写真20. 馬具の工房 (ベイパザル)

#### 4) 旧交易都市としての特徴

今回対象とした8都市は、かつての交易ルート上の都市であり、商業活動が都市の発展に寄与してきた。ベイパザル、ナルハン、ムドゥルス、ギョイヌック、タラクルは、かつてアンカラとイスタンブールを結ぶメインの街道上に位置する交易都市であった。ボル、サフランボル、カスタモヌについてもルートは異なるもののオスマン帝国時代の主要な街道上に位置している。いずれも緑豊かな山々に囲まれた立地となっている(写真21)。

都市によって規模は異なるものの、交易都市として、上記3項目から考察をすると、都市構造としては、市場空間が都市センターの役割を果たし、伝統的な空間形態を維持するエリアに新しいものが入り込み、共存しながら発展していることがサフランボル以外の7都市の共通点として挙げられた。2点目の交流空間としての役割は、人々が定期的集まることを誘引する場所が市場空間には多数存在するこ

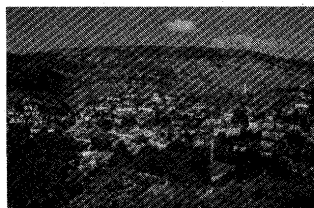


写真21. 山に囲まれ起伏に富んだ地形 (ギョイヌック)



写真22. 修復し、店舗として活用しているハン (ボル)

とが共通点である。特に露天市の場合、都市内の住民だけでなく、周辺の村々からも多くの人が訪れ、周辺の村も含めた広域エリアの交流拠点として機能している点が重要である。3点目の伝統的空間形態の観点からは、市場空間が都市センターとして長い歴史の中で都市を継承してきた場所であることから、ハンなどの伝統的な商業施設や木造の店舗群といった空間が修復されながら、活用され続けている点で共通する(写真22)。

#### 6. まとめ

8都市の事例の考察を通して、市場空間が都市の中心部に位置し、商業機能だけでなく、交流、情報交換の場であり、人が集まり、町のシンボリック空間であることが確認できた。市場空間をみる際に市場空間の内部構成と併せて、都市構造、交流空間、伝統的空間形態の3つの切り口で考察することで、各都市、あるいは地域の特徴が整理できたため、今後、他の都市についても同様に調査、考察を進めていく。今回の8都市は地方で分類をすると、マルマラ地方、黒海地方、中部アナトリア地方の3地方にまたがるが、調査地位置図をみてもわかるとおり、隣接した地方であり、8都市のエリアについてはトルコのアジア側、アナトリア半島の北西部と位置づけることができる。これらの共通点は5章でまとめたように旧交易都市であり、市場空間が周辺の村も含めた交流空間として拠点になっている点である。また、伝統的な市場空間の中に、あるいは隣接する形で新しい都市施設ができ、新旧の構成要素が都市中心部に混在しながら、発展してきている点も大きな共通点であることがわかった。

## 7. 今後の課題

今回はアナトリア半島の北西部の都市を事例に分析したが、8事例と、まだ事例が少ないため、本地域の事例を増やすと共に今後、他の地域においても同様な指標で市場空間の分析を行い、データの蓄積に努める。事例を増やし、分析することで地域性を見だし、トルコ全体像の把握へとすすめていく。また、調査研究と同時に、現地での都市活性化のため、トルコ国内外に向けて調査都市及び市場空間についての情報公開を行い、現地行政機関や住民と協議ができるよう研究をまとめていくことが大きな課題である。

### 注

- 1 参考文献 018
- 2 2006年8月に実施したトルコ歩行者空間調査によるデータ。参考文献 018 に調査結果を掲載。
- 3 チャルシュエリア図は商店街とその周辺の配置図であり、バザルエリア図は露天市の開催場所である街路や広場内のゾーニングを示した図である。
- 4 低層で規模の小さな店舗が隣接する店舗と隙間なく連続して並ぶ形態である。壁を共有する場合もある。
- 5 都市コード 01 は İstanbul であるが、本稿では論じないために組み込んでいない。
- 6 文献資料から該当する施設がかつてあったという記録がある場合、現存していなければ、マークしていない。
- 7 ブルサはシルク製品の産地であるため、繭を取り扱っていた。
- 8 凡例は図 2. データカード凡例を参照。
- 9 写真下のキャプションは都市名をさす。

### 参考文献

001. Türkiye Tarihi Yerler Kılavuzu, M. Orhan Bayrak, İnkılâp Kitabevi Yayın, 1994
002. Türk Kenti, Kemal Ahmet Arû, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998
003. Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System, Mustafa Cezar, Türkiye İş Bankası Cultural Publications, 1983
004. Mimarlık ve Yapı Sözlüğü, Doğan Hasol, Yapı-

Endüstri Merkezi Yayınları, 2003

005. Selçuklu Kervansarayları, Korunmaları ve Kull-anılmaları Üzerine Bir Öneri, Cengiz Bektaş, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1999
006. Rehber Safranbolu, Gökhan Gönenç, Kalebodur, 1994
007. Dünü ve Bugünü ile Safranbolu, Ünsal Tunçözgür, 1999
008. 19. Yüzyıl Sonunda Anadolu Kenti Mekansal Yapı Çözümlemesi, Sevgi Aktüre, O. D. T. Ü. Mimarlık Fakültesi Baskı Atölyesi, 1978
009. Bir Kent Tarihi Kastamonu, Kemal Kutgün Eyüpgiller, Eren, 1999
010. トルコ・イスラーム都市の空間文化, 浅見泰司編, 山川出版社, 2003
011. トルコ 2005, トルコ通信社, 2005
012. ロンリープラネットの自由旅行ガイド トルコ, メディアファクトリー, 2004
013. 世界歴史の旅 トルコ, 大村幸弘, 山川出版社, 2000
014. 地球の歩き方 E03 イスタンブールとトルコの大地, 地球の歩き方編集室, ダイアモンド・ビッグ社, 2006
015. 世界遺産サフランボル 民家とくらし, ジョシュクン安達智英子, 芳文社, 2004
016. サフランボルの民家, レハー・ギュナイ, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 2005
017. 「トルコにおける商業地域の空間的特質 — 他のイスラーム地域の都市との比較から —」都市計画論文集, No. 37, pp. 901-06, 2002
018. 「トルコにおける歩行者空間の構成要素について」, 鶴田佳子・高木亜紀子, 昭和女子大学学苑, 第 801 号, pp. 63-87, 2007
019. Kenthaber (トルコ都市情報サイト)  
<http://www.kenthaber.com/>, 2008/05/02
020. YerelNet (トルコ各地方についての情報サイト)  
<http://www.yerelnet.org.tr/>, 2008/05/18
021. ギョイヌック市役所公式サイト  
<http://www.bolugoyunuk.bel.tr/>, 2008/05/02
022. ムドゥルヌ市役所公式サイト  
<http://www.mudurnu.bel.tr/>, 2008/05/02
023. ボル市役所公式サイト  
<http://www.bolu.bel.tr/>, 2008/05/02
024. サフランボル市役所公式サイト

<http://www.safranbolu-bld.gov.tr/>, 2008/05/24

025. カスタモヌ市役所公式サイト

<http://www.kastamonu.bel.tr/>, 2008/05/07

026. ナルハン市役所公式サイト

<http://www.nallihan.bel.tr/>, 2008/05/02

027. ベイパザル市役所公式サイト

<http://www.beypazari-bld.gov.tr/>, 2008/05/02

#### 謝辞

本研究は、平成 19～21 年度科学研究費補助金、基盤研究 (C)「トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究」(研究代表者: 鶴田佳子) の助成を受けて、研究の一環として行われたものである。

また、トルコ各地での調査において、行政機関及び現地の方々に多大なるご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。

(つるた よしこ 現代教養学科)

(たかぎ あきこ 生活環境学科)